

2014 年 4 月 30 日

関係者各位

独立行政法人国立科学博物館
植物研究部 細矢 剛
NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク
理事長 山西 良平

第 23 回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究会の開催について (案内)

平素、自然史標本データ整備事業にご協力下さり、ありがとうございます。

第 23 回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究会を下記のとおり国立科学博物館で開催します。

多くの皆様のご参加をお待ち致しております。ご参加いただける場合は、5 月 23 日 (金) ま
でにメールで下記担当までお名前、ご所属をご連絡ください。

記

日時： 2014 年 6 月 2 日 (月) 13 時 30 分 ～ 16 時

場所： 国立科学博物館 上野本館 日本館 大会議室

<http://www.kahaku.go.jp/userguide/access/index.html>

主催： 国立科学博物館

共催： NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク

プログラムは別紙をご覧ください

本件に関する連絡先

国立科学博物館植物研究部

細矢 剛・安田 敦子・福田 知子 電話：029-853-8973, 8335 メール：s-net@kahaku.go.jp

第23回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究会
～仕事に活かせる！即効 生物多様性情報ツール～

標本のリストや、種のチェックリストを作ったり、和名から学名を求めたり、学名を和名に直したり、学名をつなげたり、切ったり、地理情報を求めたり……。博物館で標本をデータ化したり、標本情報を利用したりする場合、様々な生物多様性情報を扱う必要に迫られます。そんな時には、既存のソフトにあるさまざまな機能やインターネット上で提供されているソフト（ツール）を使うのが便利です。しかし、そういうツールが身近にあるにも関わらず、その機能やツールの存在すら知らないで過ごしてしまうこともありがちです。

そこで、今回の研究会では、標本情報を扱っていく上での便利なツールを紹介し、情報交換します。具体的には、S-Netなどの既存のデータの活用法と、標本データ自体の作成について、如何に簡単にやるか？について考えたいと思います。参加される方からは、事前に「こんなことができないか」というリクエストをいただくと、主催者側で対応したり、当日、解決方法について意見交換したりできます。

プログラム

13:30～14:00 自然史情報のデジタル化～最近のトレンド（仮題）
細矢 剛（国立科学博物館・植物研究部）

14:00～16:00 1 ダーウィンコア標準データ作成の実際 ―館用データからの変換
(途中休憩含む) 例1. 帯広百年記念館 持田 誠 氏
例2. 群馬県立自然史博物館 大森 威宏 氏

2 仕事に活かせる！即効 生物多様性情報ツール
神保 宇嗣（国立科学博物館・動物研究部）
1) S-Netデータでお手軽チェックリスト作成
2) 地理情報を活用して、簡単分布図作成

※なお、本研究会に先立ち、事前に「こんなことができないか」というリクエストを承ります。
ご希望の方は、事務局 (noffice1@kahaku.go.jp 担当：安田) までメールでご一報ください。